

昭和60年12月発行

国際交流



ふねあいのひろば

創刊号

発行
岡山市国際交流協議会
事務局
岡山市市長公室秘書課
電話 (0862) 25-4211



創刊号によせて

岡山市国際交流協議会会長 梶谷 忠二

平素から国際交流事業に対しまして、御理解と御支援を賜っており心から厚く御礼申し上げます。

今年4月、本協議会が産声をあげまして、早いもので8カ月余りが経過いたしました。このたび、本協議会の会報を創刊することができましたことは、誠に喜ばしい限りであり、御協力賜りました関係の皆様方に心から厚く御礼申し上げる次第であります。

さて、国際化時代と言われる昨今でございますが、ここ岡山は、瀬戸大橋時代の到来とともに、本市を訪れる外国人の大幅な増加も予想される等、国際化の進展に一層拍車がかかるものと考えられます。

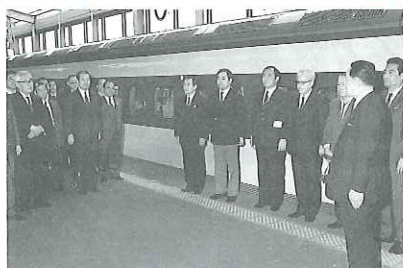
御承知のように岡山市は、サンノゼ・サンホセ・

プロブディフ並びに洛陽の4都市と都市縁組を結び、種々の分野で市民レベルでの交流を深めているところであります。今後とも、国際交流が目指す「市民対市民」の心のふれあう交流をより一層推進し、裾野の広い民間外交を展開する必要があると考えられます。そのような意味で、本協議会の役割と任務は、極めて大きくかつ重要であるということを感じるのであります。

今後、本協議会を岡山市における国際交流の推進母体としていくため、皆様方の絶大なる御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げ、創刊号の発行にあたってのご挨拶といたします。



ふ



4月12日から24日まで、松本岡山市長を団長とする岡山市友好代表団一行7人が訪中。洛陽市をは

じめ中国各都市を訪問。今後の交流について意見交換を行うとともに洛陽市民との友好を深めた。

れ



＝姉妹都市サンノゼ市から相次ぐ来訪者＝

4月5日、パシフィックネイバース岡山担当のジェーン・ヤエコ・浅沼さん、また5月2日には同会会員のクラーク・ダン・ヘイデンさんが来岡。岡山市長を表敬訪問した後、市内や建設が進む瀬戸大橋を参観。



6月6日、友好都市洛陽市が所在する河南省から、李本立河南省労働人事行庁長を団長とする河南省職業教育考察団一行6人が来岡。岡山市役所、川崎製鉄水島製鉄所等で、人事・労務管理等について熱心に視察。

あ



6月15日、姉妹都市サンノゼ市から第27回目の交換学生として、リネ・フジエ・シマダさん(22)とブライアン・ローウエル・コルプ君(22)の二人が親善大使として来岡。

い



岡山市の国際交流シンボルマークを広く一般から募集し、最優秀賞に177点の応募の中から三宅拓己さん(岡山工業高校3年生)の作品が決定。8月8日、市役所において表彰式が行われた。このシンボルマークをもとに会員バッジを作成。



7月15日から20日まで、市役所1階市民ホールで洛陽市を中心とした“中国写真展”を開催。今年4月、松本市長を団長とする岡山市友好代表団と、3月に洛陽市等を訪れた第2次岡山県田基訪中団が収めたカラー写真90点余りを展示。

(写真：山陽新聞社提供)



ト ピ ツ ク ス



今年7月、市民レベルの国際交流を一層推進するため、ボランティアによる通訳・翻訳制度がスタート。現在ボランティアとしての登録者は、英語を中心に、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、アラビア語、ノルウェー語の計59人。



7月23日、戴保安洛陽市外事弁公室副主任を団長として、第2回技術研修生が来岡。研修生は許顕勤・洛陽市環境保護研究所副所長(49)、張燦・洛陽医専付属病院医師(46)、朴静子・洛陽市第二人民病院医師(45)、李春輝・洛陽市印刷工場技術員(30)の4人で、7月25日からさっそく研修に入った。



昨年12月に、高島中学校(379人)とサンノゼ・パーネル中学校(292人)が参加して、恒例の中学生親善交換数学大会が行われた結果、サンノゼ側が優勝。9月17日、市役所において記念のトロフィー贈呈式が行われた。17回を数える大会の中で、サンノゼが上回ったのは昨年が初めてのこと。



9月3日から9月10日まで、松本岡山市市長が訪米。オレゴン州ポートランド市で開催された「日米市長及び商工会議所会頭会議」に出席した後、サンノゼ市を訪問。サンノゼ市長及びパシフィックネイバース会長をはじめ各界の方々と懇談し、友好親善を深めた。



3月17日から9月16日まで開催された科学万博つくば'85。そのコストリカ館の一角に、岡山市とサンノゼ市との交流についてパネルで紹介するコーナーを設置。



10月8日、サンノゼ観光団一行42名が来岡。岡山市を表敬訪問した後、後楽園等を散策し、日本の代表的な庭園美を満喫した。



7月27日と10月26日の2回、中央図書館との共催で国際交流シンポジウムを開催。第1回目のテーマが「市民ぐるみの国際交流を目指して」。第2回目のテーマが「息の長い交流を目指して」。市民レベルの国際交流の推進策について、有意義な意見交換を行った。



海外を旅して

岡山市長 松本 一

このたび、岡山市国際交流協会の会報“ふれあいのひろば”の創刊にあたり、市長として投稿をという依頼がありました。いろいろ迷ったあげく、今年は二度にわたって海外出張の機会に恵まれましたので、つれづれなるままに筆をとることにいたしました。

今年4月、28年ぶりに中国を訪問し、また、9月にはこれまで21年ぶりに訪米をいたしましたのであります。

今回の中国訪問は、友好都市である洛陽市のお招きによる公式訪問であり、4月12日から13日間、7人の友好代表団の団長として洛陽市をはじめ7都市を訪ねてまいりました。行く先々で、心温まる熱烈歓迎を受けながら、友好親善を大いに深めてまいったのであります。

確か洛陽駅到着は、早朝であったと思いますが、駅頭には武振国市長をはじめ、各界の代表の方々、さらに洛陽実験小学校の児童の皆さんの出迎えを受け、沿道は人垣で埋まる程の歓迎ぶりに、驚嘆と感激の入りまじったものを感じたのは、私一人ではなかったと思います。

洛陽市滞在は、わずか三日間でしたが、その間各界多数の方々とは懇談を重ね、今後の交流等について有意義な意見交換を行い、相互理解を深めることができたと思っております。会議の結果、本市の市民病院と洛陽医専付属病院とが、友好病院となることが本決まりになり、さらにまた、二回目の洛陽市技術研修生として4人の方々をお迎えすることになったのであります。

この研修生の皆さんは、7月にそろって来岡され、その内お二人は、すでに予定の研修を無事終了され、去る10月に帰国されました。残るお二人は、現在それぞれの研修先で、真剣に研修に励まれている状況です。

研修生の皆さんは、どなたも最優秀の方々ばかりであり、しかも大変研究熱心な態度には、ただただ敬服するばかりで、この点日本人も大いに真似をしなければ……と思うことしきりであります。

また中国は、急テンポで変貌しつつあり、広大な土地、それに豊富な資源と労働力を基盤に、海外資本の導入も回りながら国づくりを進めている様子を目のあたりにし、これから5年先、10年先には大きく飛躍するであろうということを、いとも簡単に想像できたのであります。

中国から帰国して4カ月余りした9月に、アメリカのオレゴン州ポートランド市で開かれた「日米市長及び商工会議所会頭会議」に出席するため訪米、その帰路サンノゼ市を親善訪問してまいりました。

会議では、“日米協力の新時代”を基調テーマに、両国の都市レベルでの当面する諸問題について、熱心に議論がくりひろげられ、貿易摩擦についても時代を反映して論議的になったのであります。

さて、サンノゼ市とは、昭和32年にわが国で三番目の都市縁組という古い歴史をもっており、私が議員当時訪問した21年前と今とは大変な変わりようで、全く別の都市に伺っているのでは……という錯覚さえ覚えたのであります。特に最近では、かの有名なシリコンバレーを核として、雄々しく発展を続けておられるという感を強くしたのであります。

トーマス・マックナリー市長をはじめ、友好団体であるパシフィック・ネイパースのハワード・スターン会長、その他多くの人々とお会いし、今後の両市間の交流についてざっくばらんに話してまいりました。マ市長御夫妻も、できれば早い機会に一度岡山市を訪ねたいという御意向ももらされておられたのであります。

現在、アメリカとわが国は、経済摩擦問題で揺れ動き、さらに中国は、「四つの近代化」の下に、わが国との経済交流を熱望されている状況であり、いずれの国とも経済問題が最大の課題となっている状況であります。

それだけに、わが国が、井の中の蛙でなく、

世界の中の日本ということ強く感ぜざるを得なかったのであります。国際化時代と言われる昨今、それはまた協調の時代でもあるとも言えると思います。

それぞれの国が、都市が、将来に向けて友好関係を保ち発展していくには、もっとお互いの実情を知り、相手の立場と国情の違いを理解し合いながら、助け合い息の長いおつきあいをしていかなければと、このたびの二度にわたる海外出張で痛感いたしました次第であります。



……サンノゼ市長とともに



☆☆☆☆☆☆☆☆ My Memory サンノゼ ☆☆☆☆☆☆☆☆

59年度サンノゼ派遣交換学生 門野 健治

サンノゼに着いて間もないある日、パシフィックネイバーズ（サンノゼ市の姉妹都市団体）の毎月の会合に初めて出席した時のことである。

帰宅する間がないので、夕刻に会長のスターンさんに大学近くの“South Street”で拾ってもらうことになっていた。僕は授業後カフェテリアで食事し、時間を見計らってキャンパスを発った。ところが何とその通りは、1stから20thまで20本もあったのである。一体どれのことが見当もつかない。

スターン夫妻はもう出た後だった。近い通りから駆け巡ったが、約束の時間を過ぎても見つからない。会合のある市役所の場所も知らず、あたりは薄暗くなり、怪しげな人影もチラホラ。正直言って怖くなった。

最後の頼みで、ホストのホープさんに電話した。「タクシーで行きなさい。」と言った。彼女はしかし、タクシーの乗り方を知らない。日本のようにタクシーは流していないのだ。僕は必死で大学へ戻って学生に尋ね、電話帳を開いてたどたどしい英語でタクシーを呼んだ。幸運にもタクシーは来てくれ、1時間以上も遅れてたどり着いた僕を、人々は得意のジョークで迎えてくれた。ホッとはしたが、ちょっとこれは不親切なのではとも思った。

しかし、それはアメリカ文化が重んじる自由と独立の現われだったのである。その晩、ホープさんは、「よくやった。私は気にはなったが心配はしなかった。健治は何とかなると思っていた。」と言ってくれた。お陰で、その後の一年間もこんなちょっとした冒険の連続となり、様々なことを学び色々な人々と出会うことができた。そんな大らかなサンノゼの人々に心から感謝し、またなつかしんでいるこの頃である。近いうちにまた第二の故郷へ帰りたと思う。（現在、京都大学4年在学中。）



民泊家庭（スターン宅）でのクリスマスパーティー・左端が筆者



和服で親善活動に参加・左が筆者

59年度サンノゼ派遣交換学生 能登原 祐子

「たくましくなったね。」これが帰国後、多くの人から言われた言葉です。それもそのはず、体重は増え、日焼けし、髪はのび、外見だけでも一年前と随分変わっていました。

「楽しかったですか？」との問いに、「楽しかったけれど…」とその次の言葉を呑み込んでしまう自分に気づきます。数多くの経験を積んだアメリカでの生活は、とても一言で言い表わすことができません。でも、楽しかった事、辛かった事含めて、全てサンノゼでのいい思い出として、事あるごとに私の脳裏に甦ってきます。

ある時私は、講義の一つで研究発表をする予定でした。週末は、小学校訪問、会合などでなかなか準備できず、とうとう前日が徹夜となってしまいました。やっと仕上がったのが朝の6時過ぎ、そのまま授業に出るためバスに乗りました。当時、大学からかなり遠い所から通っていた私は、ついバスの中でうたた寝し、気づいた時は、大切な論文を座席に置いたまま飛びおりてしまっていました。自分の迂闊さを齒痒く思いつつ、原稿なしでのスピーチは困難だと思い、バス会社に電話したりして血まなこになって捜しました。結局、その日の授業には間に合わず、研究発表は後日に延ばしてもらわなければなりませんでした。

様々な思い出が走馬燈のように駆け巡る中、今思えば一年間私を支えてくれたのは、やはり交換学生としての私の身分でした。挫けそうになった時、投げやりになった時、いつも私は「限られた時間しかない。」と自分に言いかけ、それが充実した日々結びついたようです。

現在、玉野高校の教壇に立ちながら、語学面のみならず、米国での経験をあらゆる方面で生かさねばと考えているこのごろです。



八回一！

60年度サンノゼ交換学生 **ブライアン・コルブ**

岡山に着いて一番強く印象づけられたことは、岡山の人々のご親切です。最初の経験は、岡山に着いた時で、市役所の方達が、カリフォルニアからの旅で何か問題はなかったかといろいろお心づかいして下さいました。

引受家庭の皆さんも温かくご配慮下さり、私を外国からのお客さんというよりは、家族の一員として受け入れて下さいました。そして先生方は、言葉が障害になった時も理解を示して下さいました。先生方のおかげで、クラスは勉強になっただけでなく、大変楽しかったです。

この機会をお借りして、日本滞在中、いろいろ助けて下さいました皆様方にお礼を申し上げます。皆さんの御親切と寛大さのおかげで私の6カ月の滞在は、12月にサンノゼに帰った後も、ずっと記憶に残るすばらしいものになると思います。(この手記は、英文を岡山市民の助けを借りながら和訳したものです。)

56年度サンノゼ交換学生 **ドナルド・ライランド**

私は、また岡山に来て非常にうれしく思っています。お世話になった友達やホストファミリーとまた会えるようになって、大変楽しい毎日をすごしています。

最初来た昭和56年の時は、姉妹都市の交換学生で来て、岡山で墨絵、尺八、備前焼、書道、そして日本料理を勉強しながら日本の文化を学びました。しかし、今回は、社会人として英会話を教えにまた岡山にきました。今は前と違って、英会話を教えながら日本の社会を学んでいます。

西洋人にとって、難しい勉強かもしれませんが、私は毎日がんばっています。お世話になったホストファミリー、先生達、そして岡山市民の皆様にご感謝いたします。(現在、岡山YMCA英会話教授)

★もう一人のサンノゼからの交換学生リネ・シマダさんは、2カ月余りの短期滞在となり、8月中旬に帰国。

岡山では、日舞、書道、日本語、染色、真多呂人形を熱心に勉強。彼女は、今回が二度目の来日。次の来日は、ハネムーンの時か!?……

★洛陽市研修生の内、許顕勤さんと張燦さんの二人は、予定の3カ月間の研修を無事終え、10月21日に帰国。

二一八才！

第2回洛陽市研修生 **朴 静子**
内科医師

今年の7月、研修生として初めて日本に参った時、市役所と市民病院の院長先生は、遠い所までお忙しいところをわざわざお出迎え下さって恐れ入ったのです。日本で何処へ行っても、山に緑が一杯で美しいし、水もとてもきれいし、街では車が並んで走って有ります。

病院では、先生方は仕事と研究をしっかり頑張っております。又、真心を込めて教えて頂きまして、何かが分からない所があると分るまで何回も繰り返して説明して下さい、皆はとても親切なので外国へ来た感じがなくて、3カ月の月日が夢の様に過ぎました。

私も、今後先生方の御指導に従って、もっと勉強するつもりで、そして中日両国人民の架け橋になりたいと思えます。(市民病院で研修中。来年7月帰国予定。)

第2回洛陽市研修生 **李 春輝**
印刷技術員

今年の7月、私は日本の高度な技術を学ぶ為に、洛陽から来ました。日本の友人達は非常に親切で、外国に来ている気がしません。自分の家にいるような気がします。この紙面を借りて、岡山の人達に心から感謝します。

日本の工場の人は、仕事の自覚性が強いと思う。又、コンピュータを広汎に使った工程の自動化が進んで、生産効率が良いと思う。お店の人はお客様に親切で、顔を会わずと、いつも笑顔で「いらっしゃいませ」と迎え、物を買うと、「有難う」と言ってくれます。

岡山の道路はあまり広くないけれど、車の数は多いので、歩いていても危険です。山は緑が多く、川の水もきれいと思う。しかし、物価は中国より高いです。私もあと2カ月ほどですが、今後も頑張りますのでよろしくお願いします。(山陽印刷で研修中。来年1月帰国予定。)

許さんは、懶クラレ岡山工場と岡山市下水道局で汚水処理技術を、さらに、張さんは、岡山済生会総合病院と市民病院で医療機械操作技術について熱心に研修。

★留学生・研修生でお世話になりました方々に、三人になりかわりまして、心から感謝申し上げます。





中国の思い出(食事について)

懶荒木組社長 荒木 雄一郎

今年四月に、松本市長一行の訪中使節団に参加した時、中国の食事はシツコイから和食の持参を是非と言われたが、私は用意しなかった。何でも食べられる自信と面倒臭がりのせいだが、七人のメンバーの中には、たつぷりと梅干し等用意した人もいたが、北京到着後翌朝の食事で一度お粥のおかずにしただけで、後は誰も一度も食べたいとは言わなかった。

全員、健談家揃いで、体調も良く、中国料理に飽きる事もなく、かえって中国料理に和食のおかずはチグハブで合わない事が良くわかった。



郷に入れば郷に従えとは、よく言ったものだと思う。乾杯！カンペー！と盃の底を確認する行事が続くと聞いて、酒が強くない

私はいささか気懸かりであったが、思った程ではなく、慣れてくれば、こちらも程良くカンペーと盃をあげて友好の雰囲気を楽しんだ。中国では、主人側が客に料理を取ってあげるのが礼儀なので、初めは面くらったが、そのうち我々も先方にお返しをしたり、我々同志の食事もマネてやってみた。和気あいあいとしてよろしい様だが、何せやり慣れない事なので、サマにならない。

洛陽第二夜の夕食の後、答礼として“昴”を歌った。その後招待された工人文化宮（日本の市民会館）で、上海の歌手が“昴”を歌うのに出くわし、日中友好のため本場の“昴”をやれとお膳立てされて、やむなく二千人の聴衆の前で歌う羽目になった。学生時代にオーケストラの指揮等でステージの経験はあるが、歌で本物のステージに立ったのは、私にとって稀有の経験であった。



写真中央が筆者

サンノゼと私

川柳岡山社 大森 風来子

年末の30日から柳人宅で正月を過ごした昭和43年1月2日、岡山市出身の浅沼さんに連れられて、サンノゼ市長室を訪ねた。

秘書も顔を見せず、もちろんお茶も運んでこなかった。市長のテーブルの前の椅子に腰をおろして、岡山市長からのメッセージを渡し、後はジョークをとばしながら川柳の話をした。ロナルド・ジェイムス市長は、私が訪米する少し前に来岡され、岡山大学を公式訪問されていたので、私とも面識があったので、帰り際に是非サンノゼ大学を見て下さいと言われた。もうその時間がないと答えると、私が岡山を訪ねた時も、あなたと同じでしてと言って私をねぎらって下さった。

それから、市会議事堂へ案内された。市議員は、わずか7名。人口は岡山と大差がないのに、徹底した合理主義のあらわれであろうか。当時、議長だったノーマン峯田さんの専用の駐車場があり、地面に白いペンキで名前が大書されているのを見て、議長さんの自家用車がいつでも駐車できるのである。これもなるほどと感心した。

サンノゼ市役所では、月に何回か部課長会議が開かれるが、早朝に出勤し一般職員が出勤するまでに、議事を審議決定し速やかに伝達すると聞かされた。この制度は、日本でも見習うべきではないだろうか。

その日の昼食には、市の食堂を利用した。広い食堂にレジ係が一人だけで、自分で好きなものをとり、お金を払ってから食べ、終わったら移動式食器棚に入れて出るようになっている。20年前の日本には、こんなシステムの真似事もなかったのも、ただ驚くばかりであった。

カリフォルニア州の都市では、ロサンゼルス・サンディエゴ・サンフランシスコ・サンノゼの順に人口が多い。そして、間もなくサンフランシスコを追い越そうとしている。岡山の新空港から、サンノゼ空港に直行便ができるまで国際交流を続けていきたいと思う私である。



写真中央向って左が筆者



伝言板

ボランティア通訳・翻訳制度の活用を！

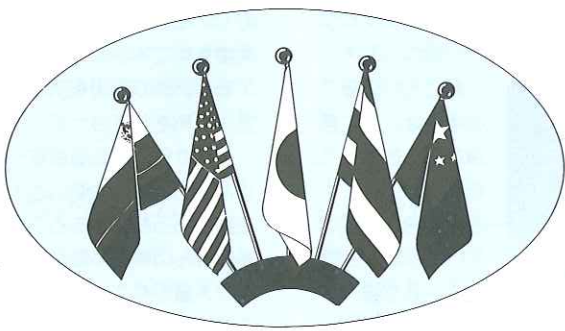
国際交流を進めていく上で、一番大きな障害となっているのは、やはり言葉の問題。この解決の一助にでもなればと、本協議会では今年7月から「ボランティア通訳・翻訳制度」をスタートしています。

すでにボランティアとして59人の方々に登録いただいております。順次活動していただいているところです。通訳や翻訳でお困りの方、またはそのような人を御存知の方は、ドシドシお申込みください。

・観光案内の通訳の場合……岡山市観光協会（電話25-4211、内線2562）または、岡山市観光案内所（電話22-2912又は24-2572）

また、市内のホテル・旅館に問い合わせいただいても結構です。

・観光案内以外の通訳または翻訳を希望される場合は、本協議会事務局までお問い合わせください。



ホット情報

- ・3年前、洛陽市から日本料理の研修に来岡されていた高国慶氏が、今年の早春めでたく挙式。
- ・12年間、サンホセ市長を務められたジョニー・アソフエイファ氏の後任に、エドガー・サボリーオ・メヒア氏が今春就任。
- ・洛陽市の戴保安（通訳）氏が、今春めでたく外事弁公室副主任に昇格。
- ・本年5月、サンノゼ・パシフィックネイバーズの役員改選が行われ、会長にハワード・スターン氏が再選される。また、昨年の交換学生ミシェル・ドナヒューさんが、副会長（交換学生担当）に就任。
- ・昭和49年度のサンノゼ交換学生メアリー・ジャクソンさんが、8月24日めでたくゴールイン。
- ・サンノゼ派遣交換学生の同窓会組織として、SOSO会（ソーソー）が今夏結成。
- ・岡山国際盟友都市協議会の理事として御活躍いただいた安藤正瑛氏（岡大名誉教授）が、このたび勲三等旭日中綬章を受賞。さらに、本協議会の監事として御活

会員増強に御協力を！

今年4月、本協議会設立当初の会員数は191。その後、40余り会員が増えている状況ですが、組織の強化を図るため、より多くの市民の方々に御参加いただきたいと思っております。

お知り合いの方々に、本協議会の入会をおすすめいただき、会員の輪をより大きくしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。（お問い合わせ先は、本協議会事務局まで）

御寄付ありがとうございました！

本協議会の国際交流基金は、昨年、梶谷会長から御寄付いただいた300万円を基に、国際交流事業に有効に使うため、本協議会設立と同時に設けられたものです。

今年度、新たに下記各社から多額の御寄付をいただきました。誠にありがとうございました。（順不同、敬称略）大本組、小田象製粉、カイタツフ、山陽新聞社、山陽相互銀行、山陽放送、天満屋、中鉄バス、宮野

躍いただいております大熊立治氏（岡山美術館長）が、三木記念賞を受賞。大変おめでとうございます。

■こちらデスク■

このたび、創刊号の編集にあたりましたが、何分にもスタッフ全員不慣れなため、デキバエは決して満足できるものではありません。今後、会員皆様方の御支援と御協力をいただきながら、順次内容を充実してまいりたいと考えております。

どうか御意見や御要望、その他何なりとお寄せくださいますようお願いいたします。そして、この会報のタイトル「ふれあいのひろば」にふさわしい“会員の広場”としての会報としてまいりたいと考えております。

ここで一つお願いでございますが、今年度の会費が未納のお方は、早目に納入くださいますようお願いいたします。

師走に入り何かと御多忙のことと思いますが、御家族おそろいで、よいお年をお迎え下さるようスタッフ一同お祈りいたします。